

二〇二六年三月七日（参加者一六名）

落書きは残したままで卒業す	わたる
見えぬまで手を振りあひて卒業子	澄子
老ひ犬の鼻先に咲くいぬふぐり	むべ
卒業すわが故郷は地震の町	花茗荷
卒業の机に深き傷ひとつ	博充
ひと駅を乗らず歩きぬ卒業子	むべ
着古した白衣に謝して卒業す	康子
日溜まりはここぞと咲けるいぬふぐり	むべ
高らかに校歌斉唱卒業子	あきこ
草原に瑠璃の点描いぬふぐり	えいじ
喜びのあつまりと見ゆ犬ふぐり	わかば
コサージュをととのへ合ひて卒業子	むべ
卒業子部活監督胴上げす	よし女
堂に満つパイプオルガン卒業式	むべ
疎に密に畔彩りていぬふぐり	こすもす
いつまでも円陣解かぬ卒業子	澄子
墓前へと卒業証書手向けけり	康子

若鮎句会みのる選・二〇二六年三月一五日